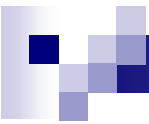


第4回JavaScriptゼミ

3 - 2 StringオブジェクトのHTML関連の
メソッド

発表者 田島勇樹 10月27日(金)



3-2-1 ハイパーリンクの設定(1)

■ anchor()メソッド

ハイパーテキストの移動先となるアンカー(リンク先の目印)を設定する

書式: Stringオブジェクト名.anchor(anchorName)

引数: anchorName - アンカー名


戻り値: アンカーとなったStringオブジェクト

アンカーを設定するにはanchor()メソッド、適用した文字列をdocument.write()メソッドで書き出す必要がある。

例 「目次」という文字列に「index」というアンカーを設定するスクリプト

```
var myString="目次";
```

```
document.write(myString.anchor("index"));
```



3-2-1 ハイパーリンクの設定(2)

- link()メソッド

ハイパーリンクの移動元を作成

書式: Stringオブジェクト名.link(href)

引数: href—ハイパーテキストの移動先(URLまたはアンカー)

戻り値: リンクとなったStringオブジェクト

例 「#index」というアンカーへ移動するためのリンクを作成するスクリプト

```
var toIndex="目次へ移動";  
document.write(toIndex.link("#index"));
```

3-2-1 ハイパーリンクの設定 (3)

例「<http://www.ohmsha.co.jp/>」へのリンクを作成するスクリプト
var toOhm="オーム社";
document.write(toOhm.link("http://www.ohmsha.co.jp/"));





3-2-2 文字の大きさの設定(1)

- big()メソッド・・・文字を大きなサイズで表示する

書式: Stringオブジェクト名.big()

戻り値: フォントが大きくなったStringオブジェクト

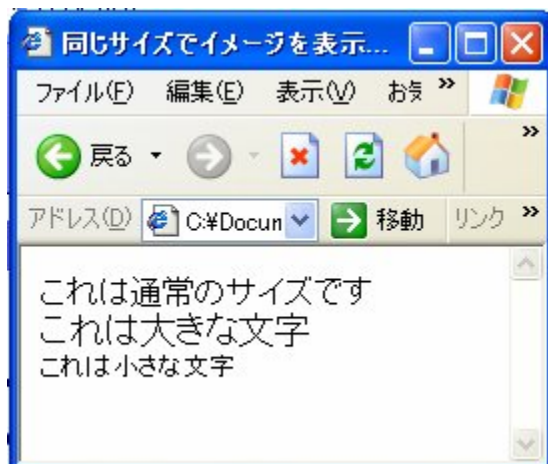
- small()メソッド・・・文字を小さなサイズで表示する

書式: Stringオブジェクト名.small()

戻り値: フォントが小さくなったStringオブジェクト

3-2-2 文字の大きさの設定(2)

例 big()メソッド、small()メソッドを使用したスクリプト
document.write(“これは通常のサイズです”,”
”);
var bigString=“これは大きな文字”;
document.write(bigString.big(),”
”);
var smallString=“これは小さな文字”;
document.write(smallString.big(),”
”);



3-2-2 文字の大きさの設定(3)

- `fontSize()`メソッドで表示されるフォントのサイズを指定

書式:Stringオブジェクト名.fontSize(size)

引数:size—フォントのサイズ(絶対値または相対値)

絶対値の場合フォントのサイズは1から7までの数値を絶対値で指定できる。

例 絶対値・・・1,3,5

相対値の場合デフォルトのフォントサイズから相対値で指定

相対値・・・+2,-7,-4

戻り値:フォントサイズの変更されたStringオブジェクト

例 フォントのサイズを絶対値、相対値指定されたスクリプト

```
var myString="さまざまなフォントサイズ";  
document.write("size=3:",myString.fontSize("3"),"<br>");  
document.write("size="+3:",myString.fontSize("+3"),"<br>");  
document.write("size=-3:",myString.fontSize("-3"),"<br>");
```

3-2-2 文字の大きさの設定(4)

- 実行例



fontsize()メソッドの引数はHTMLのタグのsizeアトリビュートに相当

3-2-3 書体を設定(1)

- 書体を設定するメソッド

メソッド名	説明
<code>bold()</code>	書体を太文字(ホールド)にする
<code>italics()</code>	書体を斜体(イタリック)にする
<code>strike()</code>	文字列を抹消線付きで表示する
<code>sup()</code>	表示される文字列を上付き文字にする
<code>sub()</code>	表示される文字列を下付き文字にする
<code>fixed()</code>	文字列のフォントを、Webブラウザで等幅フォントとして設定されているフォントに設定する

3-2-3 書体を設定 (2)

- さまざまなフォントスタイルに表示するスクリプト

```
document.write("<p>これは","ボールド".bold(),"</p>");
```

```
document.write("<p>これは","イタリック".italics(),"</p>");
```

```
document.write("<p>これは","抹消線".strike(),"</p>");
```

```
//上付き文字
```

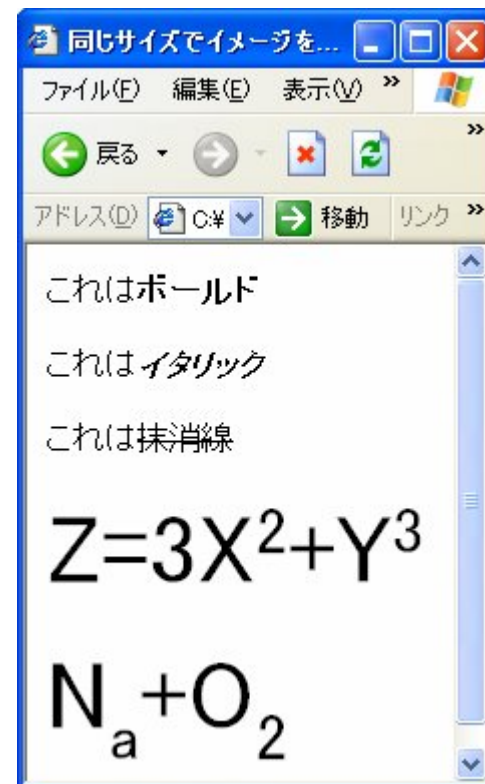
```
var supStr="Z=3X"+"2".sup()+"+Y"+"3".sup();
```

```
document.write("<p>",supStr.fontSize(7),"</p>");
```

```
//下付き文字
```

```
var supStr="N"+"a".sub()+"+O"+"2".sub();
```

```
document.write("<p>",supStr.fontSize(7),"</p>");
```



3-2-4文字の色を変更する

- fontcolor()メソッド・・・表示される文字列の色を指定

書体 : Stringオブジェクト名.fontcolor(color)

引数 : color—色の名前またはRGB値 (#RRGGBB)

戻り値 : 色が変更されたStringオブジェクト

例 文字ごとに色を指定するスクリプト

```
var myStr;
```

```
//#RRGGBB形式による色の設定
```

```
myStr="緑".fontcolor("#00ff00");
```

```
myStr+="黒".fontcolor("#000000");
```

```
//色の名前による色の指定
```

```
myStr+="黄".fontcolor("yellow");
```

```
myStr+="灰".fontcolor("gray");
```

```
document.write("<p>",myStr.fontsize(7),"</p>");
```



補足 ~ StringオブジェクトのメソッドとHTMLタグの対応 ~

■ Stringオブジェクトのメソッドと対応するHTMLタグ

メソッド名	対応するHTMLタグ	説明
anchor()	<a name>	アンカーの指定
link()	<a href>	リンク先の指定
big()	<big></big>	文字を大きくする
small()	<small></small>	文字を小さくする
fontsize()		文字のサイズを設定する
bold()		ボールドにする
fixed()	<tt></tt>	等幅フォントにする
italics()	<i></i>	イタリックにする
strike()	<s></s>	抹消線付きにする
sub()		下付き文字にする
sup()		上付き文字にする
fontcolor()		文字色を指定する



練習問題

- 問題1 linkメソッドを用いて読み込むたびにリンク先をランダムに表示するプログラムを作成せよ。
- 問題2 Stringオブジェクトのメソッド名が書かれたボタンを押したらそれに対応するHTMLタグを出力するプログラムを作成せよ。
- 問題3 時間ごとに文字列の色または文字列の書体が変わるようなプログラムを作成せよ。